

## 明倫短期大学研究会講演抄録

2000年度から大学全体の研究会として発展している当会も、2001年度より、助手・補手も含めた教員スタッフ全員の研究会となった。また、研究会での発表に慣れていない方もいるけれども、歯科技工学・歯科衛生学（学問としての名称も定まっていはいないが）の学問としての確立をめざして共に研鑽を重ねてゆきたいものである。

なお本年度より、植木一範講師（歯科技工士学科）が世話人の一人に加わっている。出来るだけ早く、会則を含めきちんとした制度化をと考えている。

（文責 世話人 福島祥紘）

第52回：2001年1月11日（木）

### 本学の発展に向けて

内田 安信 学長

「本学の発展に向けて」を主題として、広く現在の大学を被う様々の問題と将来展望についてなどを、学術、政治経済、そして教育面、更には現下の歯科医療の現状にスポットを当てて総括し、翻って本学における実情とを対比し考察した。結論として本学発展に向けてのキーワードを万感の思いをこめて以下の如く結んだ。TopdownよりBottom up で活性化を、自己改革と意識改革で学生のための第三者の評価に堪えうる大学、情報公開で透明性ある大学、明るく元気なコミュニケーションのとれる普通の大学を目指したい。差し詰め若手研究者の育成と経済基盤の確立は喫緊の要事である。

第53回：2001年1月25日（木）

### 論文への理解を深めるために

新井 俊二 教授（歯科衛生士学科）

江川 広子 講師（歯科衛生士学科）

学術雑誌によって論文の種類が異なるので、私たちが論文を作成して学術雑誌に投稿するに当たり、論文の種類をどうするか戸惑うことがある。

今回は、江川先生に作成中の論文の原稿を提示してもらい、それがどの種類の論文に該当するかを討議し、その分類の根拠を探り、論文に対する理解を深めた。さらに原著論文を作成する場合の留意事項についてのまとめを行った。

第54回：2001年3月8日（木）

### 障害者の歯科診療（体験）実習報告

歯科衛生士学科専攻科医療衛生専攻（第1回生） 西山 祐子  
金子 真理

医療衛生専攻の研究ゼミおよび臨床実習の一部として、一週間の内の午後1ないし2日、昨年6月より本年2月までの8ヶ月間、新潟県歯科医師会障害者歯科センターにおいて、障害者の歯科診療補助、予防処置、保健指導などを体験することが出来た。そこで我々の実習記録を資料として、臨床実習体験の一部を、実習期間中に経験できた症例と実習内容としてまとめ、障害の種類と症例数、障害者の年齢別症例数、診療内容と経験数、経験した対応方などについて報告した。

### アクリルレジンの細胞毒性試験

歯科技工士学科専攻科生体技工専攻（第1回生）

伊藤 圭一、伊藤 隆章、大塚 章弘

歯科材料であるアクリルレジンの細胞毒性試験を、MC3T3-E1細胞を用いて行った。試験材料のアクリルレジンは、ジーシーアクロン（加熱重合レジン）、ジーシーユニファスト（即時重合レジン）を使用し、試験試料条件はアクロンが加熱重合後・餅状化状態、ユニファストは練和直後とした。毒性評価は、①顕微鏡的細胞障害度と、②細胞増殖阻止円の径（ノギスによる計測）によって行った。結果、細胞障害度、阻止円の径ともに即時重合レジン練和直後が最も高く、ついで加熱重合レジン餅状化状態、加熱重合後の順となった。以上の結果を報告した。

第55回：2001年3月22日（木）

### 歯科技工士の現状 平成12年度日技会員 実態調査報告より

藤口 武 助教授（歯科技工士学科）

国民の歯科への要望が高まり、医療職である歯科技工士の資質向上が求められているが、昨今の歯科技工士が置かれている環境について日本歯科技工士会が行った平成12年の実態調査報告内容から歯科技工士の現状について報告した。

歯科技工士の就業実態や需給に関し厳しい現状であることを踏まえ、これからの技工業界で活躍できる卒業生を出すために、人間性の確立のもとより歯科技工に関する知識、技術をより高度で付加価値を持たせな

## 明倫短期大学研究会講演抄録

ければならないと考えられる。

### 骨髄移植前の根管治療

金子 潤 助教授 (歯科衛生士学科)

骨髄移植前には、感染源となりうる口腔領域病変の治療が必要であるが、どの程度の病変を処置すべきかについては明確でない。最近では、従来抜歯の対象となっていた無症状根尖病巣菌を未処置のまま骨髄移植を行った報告も出てきている。今後さらなる研究の発展が望まれるが、未処置群の設定は人体実験的要素を含むため、骨髄移植の緊急性の高い症例を集めて調査を行うしかないであろう。

今まで抜歯していた歯を保存することができるようになれば、患者さんにとって大きな利益となることは間違いない。

第56回：2001年4月26日 (木)

### 歯の進化から哺乳類の進化を考える

小黑 章 教授 (歯科衛生士学科)

Erik Stokstad: Tooth Theory Revises History of Mammals. SCIENCE, 291: 26, 2001. 「歯の進化から哺乳類の進化を考える」と題して、紹介した。哺乳類の歯の進化のうち最も重要なものはtribosphenic molar であると考えられ、それは南半球と北半球において、それぞれ独自の進化を遂げ、そこから、南半球の単孔類ほかの原始的哺乳類は、北半球の有袋類と有胎盤哺乳類と共通起源を持つがそれぞれに独立して進化した系統として位置づけられるという仮説が考えられる。

### 歯科技工で発生する粉塵について

五十嵐 雅子 講師 (歯科技工士学科)

歯科技工士は多種多様な材料と器具を使用し、その材料から多量の粉塵が発生する作業環境のなかで、健康に不安を抱きながら研磨作業を頻繁に行っている。長年にわたり歯科技工に携わってきた患者の肺疾患が報告され、歯科技工という職業的な環境と疾患の関連性が指摘されている。生体に影響を与えている因子となる粉塵粒子の大きさ、粒子の化学性状、濃度等についての研究を紹介し、粉塵対策とその重要性について述べた。

第57回：2001年5月10日 (木)

### 医療用具の適正使用に関する研究

佐藤 温重 教授 (歯科技工士学科)

医療用具の中には使用時に本来の機能が十分発揮できず不具合を生ずるものがある。不具合を未然に防止するためには、1) 不具合要因と想定される化学物質の溶出量(暴露量)の計測、2) 使用上の注意に関する添付文書の改善、3) 安全性情報管理体制の整備、などが有効である。歯科臨床で使用されているグローブおよび義歯裏装材からのフタル酸エステル溶出量をもとにしたリスク評価と適正使用について述べた。(本研究は平成12年度厚生科学研究費補助金の助成によって行われた。)

第58回：2001年5月24日 (木)

### 歯科衛生士学科2年生の食事調査の現状

平澤 明美 講師 (歯科衛生士学科)

平成12年度歯科衛生士学科2年生の「栄養学・栄養指導 演習」授業の内容を報告し、授業で実施している食事調査の結果を評価した。多くの問題点があったが、以下の3項目が明確になった。(1) 献立の材料がわからない。(2) 材料の目分量から正味量が換算できない。(3) 正味量からカロリー計算が出来ない。今後の課題として、調査の事前準備で3項目についての現状よりもっと具体的な資料・解説が必要と思われる。

### 歯科技工におけるCAEに関する一考察 ～3D・CADと数値解析を用いた 最適設計シミュレーション～

植木 一範 講師 (歯科技工士学科)

CAE (Computer Aided Engineering) は、開発から製造および販売・サービスに至るまでの生産管理において、工業界では広く一般的に利用されている。現在まで歯科界、特に歯科技工においては、技工物を数値データとしてコンピューター上で処理する事が困難であるとされてきた。しかし、今後はユーザー(患者)の製品に対する品質志向は高くなると予測されており、生産者のQC (Quality Control) が一層重要視される時代が到来する。そこで今回、CAEを歯科技工に適用する一考察を行ったので報告した。